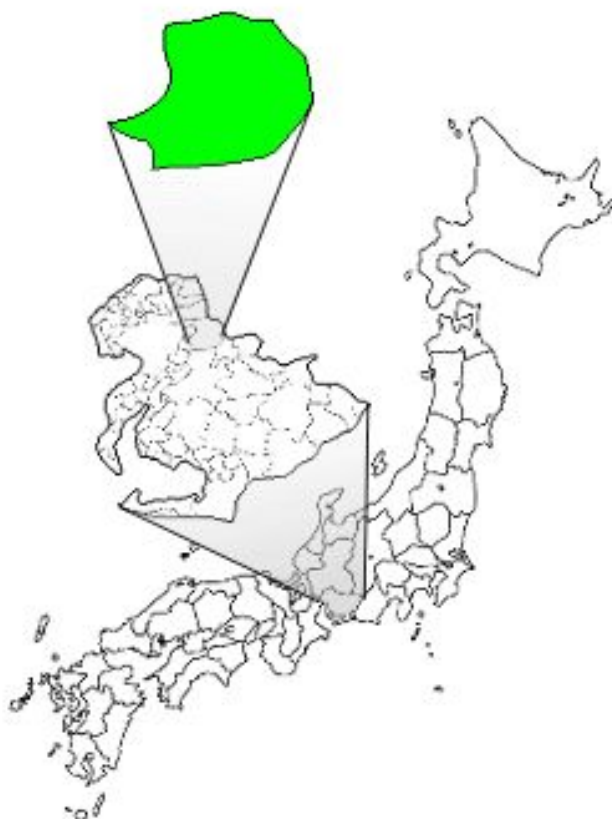


事例番号 086 せともの文化と出会うまち(愛知県瀬戸市)

1. 背景

瀬戸市は名古屋市の北東約 20km の地点に位置し周囲を丘陵に囲まれた人口約 13 万 2 千人のまちである。丘陵地に良質の陶土やガラスの原料となる珪砂を豊富に含み、1300 年余りの歴史と伝統を誇る「せとものまち」として「日本六古窯」のひとつとなり、中世以降わが国有数の陶磁器の生産地としてその地位を確立してきた。その過程で瀬戸は村から町へ、町から市へと大きく発展してきた。特に瀬戸川沿い、御蔵会所跡(旧市役所、現市民会館)は中心市街地として発展し、明治 20 年頃から商店が集まって「朝日町発展街」と呼ばれる商店街が形成され、1960 年代には「銀座通り商店街」となって賑わいの核となった。

しかし近年になると消費の低迷や円高等による輸出不振から陶磁器産業は大きな打撃を受けるようになり、製造品出荷額は大きく減少してきた。それに伴い瀬戸市の経済活力は徐々に低下し、商店街の衰退傾向が顕著になってきた。また、最近では郊外幹線道路沿いに大型店が立地してきたことから、その衰退が加速されることとなった。今後は急激な少子高齢化が進むと見込まれていることから、衰退がさらに顕著になっていくことが懸念された、このような危機意識から、まちを再生させなければならないという気運が高まり、商店街の活性化やまち全体の再生への取り組みが始まった。



瀬戸市の位置 (資料:瀬戸商工会議所)



瀬戸市地図 (資料:瀬戸市観光協会)

2. 目標

1999年に策定された「瀬戸市中心市街地商業等活性化基本計画」は、まちの目標像を次のように表現している。

「世界へと「せともの文化」を発信するまち 瀬戸・くらしミュージアム ーせともの文化と出会うまちづくり」

同計画では 2005 年に開催が予定されていた日本国際博覧会(愛知万博)を契機に「せともの文化」の再構築を図るため、次の基本方針を掲げている。

- ・ 「せともの文化」を支える都市基盤づくり

- ・「せともの文化」が漂う都市イメージづくり
- ・「せともの文化」を活かす新たな都市型商業づくり
- ・「せともの文化」がいきづく都市型生活環境づくり
- ・「せともの文化」が結び合う新たな体制づくり

一方、第5次瀬戸市総合計画(2006年度～2015年度)では、市が目指す社会の姿を「自立し、助けあって、市民が力を発揮している社会」と表現している。そして、そのときに生まれている「まちの姿」として次の3つを想定している。

「人々が集い、賑わい、躍動するまち<交流>」

「市民が安全に、安心して暮らしていけるまち<安全・安心>」

「市民が生涯を通じて力を育み、生かすまち<学び>」

このようなまちづくりを、中心市街地商業等活性化基本計画が強調する「せともの文化」をキーワードに進めているのが瀬戸市の特徴である。

3. 取り組みの体制

商店街、第三セクター「瀬戸まちづくり株式会社」(TMO)、市民、学生、行政等の連携により商店街の活性化やまち全体の魅力づくりに取り組んでいる。

4. 具体策

(1) 「瀬戸まちづくり株式会社」

① 設立の経緯

瀬戸市では中心市街地の街並み環境を改善するため 1981 年に「瀬戸川文化プロムナード計画」(瀬戸川沿いの街なみ整備)を策定してハード整備を進めていたが、そのような状況の中で中心市街地の 4 商店街も地域一体となった活動を開始した。その目標は、まちづくりの拠点をつくることに置かれた。それぞれの商店街が個性を活かして連携するとともに、地域住民や大学生、市民団体等との交流を拡大することで、中心市街地の「コア」機能を強化しようとしたのである。銀座通り商店街では女性陣が 1999 年に「銀座レディース」を組織して各種イベントを企画し、名古屋学院大学の学生も参加して実施したところ盛況であったため、まちづくりに対する将来展望も見えてきはじめた。

1999 年 3 月には中心市街地活性化基本計画(瀬戸川沿いの約 105ha)が策定され、前記の目標や基本方針が定められた。そして、その実現を図るために 1999 年 5 月、瀬戸まちづくり株式会社が設立された。

瀬戸まちづくり株式会社の資本金は 2,000 万円であり、出資者は 106 名である。その内訳は、瀬戸市、瀬戸商工会議所、瀬戸信用金庫、愛知県陶磁器工業協同組合、瀬戸陶磁器卸商業協同組合、愛知県珪砂鉍業協同組合、瀬戸陶磁器工業協同組合、中央通商店街振興組合、銀座通り商店街振興組合、末広町商店街振興組合、みなみ商店街振興組合、その他(95 名)となっている。

瀬戸まちづくり株式会社は当初瀬戸商工会議所内に置かれていたが、2005年2月には同月竣工した尾張瀬戸駅前再開発ビル「パーティせと」の5階へ移転した。同ビルの管理運営は瀬戸まちづくり株式会社が行っている。

② 目標と事業内容

瀬戸まちづくり株式会社の役割は、「現在そして将来にわたって必要と認められ」、かつ「個人や組合のみでは実現が難しい事業や行政が実行するよりもさらに事業効果を生み出せる」各種の活性化事業の実施や支援を行うことである。その際の目標は、「せともの文化」のまちイメージを確立すること、魅力的な商店環境をつくりあげること、将来にわたる地域経済の再構築を図ること、の3点に置かれた。また、事業内容は次の3つに分類された。

- 第1 瀬戸まちづくり株式会社が自ら事業主体となって行う事業（「直轄事業」）
- 第2 各商店街振興組合が事業主体となって行う事業を支援する事業（「組合事業」）
- 第3 個人や複数の商業者等が事業主体となって行う事業を支援する事業（「個別事業」）

具体的な事業の内容は以下のように設定された。

- 1. 瀬戸市内の都市開発、観光開発、並びに土地、建物の有効利用に関する調査、企画、運営、設計及びコンサルタント
- 2. 不動産の売買、交換、賃貸借及び仲介並びに所有、管理
- 3. 各種イベントの企画、運営及びチケットの委託販売
- 4. 商店街、商店の販売促進のための共同事業等、商業振興を図るための企画、運営、指導、及び情報提供
- 5. 出版、観光案内、旅行斡旋、シャトルバスの運行委託
- 6. 飲食店の経営
- 7. 民芸品、工芸品、清涼飲料水、菓子、レトルト食品、惣菜の製造販売
- 8. 食料品、日用雑貨品、たばこ及び酒類の販売
- 9. 情報通信機器を利用した情報処理並びに情報提供
- 10. 損害保険の代理店
- 11. 上記各号に附帯する一切の業務

③ 商店街の空き店舗の有効活用

瀬戸まちづくり株式会社発足当時は、先に述べたように商店街の関係者と名古屋学院大学の学生との交流が行われていた。そこで、まずはその関係を発展させることで商店街の活性化を図ることが企画された。商店街の中の隣り合わせの2つの空き店舗を改装し、一方を商店街若手有志により運営される「お休み処銀座茶屋」とし、他方を名古屋学院大学と教員により運営される「まちづくり NPO 人コミュ倶楽部」の事務所とした。オープニング・セレモニーは瀬戸市長、名古屋学院大学学長等の主席の下、盛大に行われた。

前者は小学生から高齢者までが集まる場となり、後者は大学の公開講座が行われる場となったことから、そこに多様な人々の交流の場が生まれた。これらの一連の事業を瀬戸まちづくり株式会社がバックアップした。前者にはさらに瀬戸みやげ推奨品を扱う「学生の店」がオープンした。

その後、学生の活動を強化するために愛知県の「商店街共創事業(商店街インターンシップ事業)」を活用して「学生の店」と「人コミュ倶楽部」事務局とをつなげる改装を行い、2002年9月に「マイルポスト」としてオープンした。建物には「人コミュ倶楽部」の事務局、カフェ、「学生の店」(“瀬戸みやげ推奨品セレクション”、フェアトレード商品、瀬戸の陶芸作家の器を販売)、ミニFM局(人コミュFM86.8MHz)が入った。運営は非営利ビジネスとして学生が行っており、商店街と大学とが指導、監督を行っている。カフェの材料は商店街から仕入れられている。また、カフェでは月に一度、多彩なゲストを招いて行う講演会、ワークショップ「マイルポストカフェ」を開催している。

このように「マイルポスト」は商店街において人々が集まる賑わいの核となった。また、年間のさまざまなイベントを通して学生と商店街との交流が深まるようになった。

以上の他、瀬戸まちづくり株式会社が商店街の空き店舗活用に取り組んだ事例としては、例えば「EXPO 市民サロン」(2005 日本国際博覧会推進瀬戸地区協議会が運営する愛知万博に関する情報交換の場、パソコンの無料利用スポット)、「かわらばん家」(瀬戸まちづくり株式会社直営、若手工芸家作品の常設展示・企画展示・販売、イベント、研修等の場)などがあり、これまで空き店舗の減少に大きく貢献してきた。



「かわらばん家」周辺地図 (資料:瀬戸まちづくり株式会社)



「かわらばん家」内部 (資料:瀬戸まちづくり株式会社)

④ 収益事業の展開

瀬戸まちづくり株式会社は、経営基盤をしっかりとしたものとするため、さまざまな収益事業にも取り組んでいる。例えば、駐車場経営、清涼飲料水自動販売機設置、イベント(せともの祭、市民祭等)におけるオリジナル T シャツ、弁当等の販売等があるが、瀬戸の文化・伝統を活かした取り組みとしては「尾張青瓷(あおし)」グッズの開発・販売がある。

「尾張青瓷」とは平安時代に使われていたといわれる 1300 年の歴史を持つ陶器であるが、その実物は現存していなかった。それを「尾張青瓷研究会」が花文碗として復元し、瀬戸まちづくり株式会社に寄贈した。それを機会に瀬戸まちづくり株式会社は「尾張青瓷」をまちおこしに活用する方法を考え、ネクタイピン、ペンダント等に加工して販売することになった(ネクタイピン 5,000 円)。なお、同社は陶器の干支の置物も販売している。

(2) 「せと・まるっとミュージアム」

瀬戸市では 2005 年の愛知万博の開催インパクトを地域のまちづくりに生かし、まち全体を美術館、博物館に見立てて交流豊かなまちづくりを目指す「せと・まるっとミュージアム構想」を 2000 年 2 月に提唱した。瀬戸には不要になった窯道具を積み上げてつくった塀や壁である「窯垣」、窯元の煙突、陶磁器商の店舗などやきものまちらしい伝統的・歴史的な風景があり、新しい風景として万博開幕を目指して整備された尾張瀬戸駅前ビル「パルティせと」や「瀬戸蔵」(歴史・文化を体感できる産業観光拠点施設)などがある。これらの資源を連携させたネットワークを形成して「まるっとミュージアム」とし、人々の交流を梃子にまちの活性化を図ろうというわけである。

そのような目的の下、市は市民による地域資源発掘を促進するため、「瀬戸百景」の選考や「街角ギャラリー」の募集などを行ってきた。瀬戸百景では応募のあった 274 か所から人々の暮らしぶりや文化活動なども含めて瀬戸を代表する 100 の風景を選出した。その選出は公募市民による「ひゃっけい隊」を中心に行った。「街角ギャラリー」では、窯元や作家の工房、やきもの間屋、街角のショーウィンドウなど全部で 178 件の登録を得ることができた。市ではこれらの地域資源について、食事、買い物、体験などを楽しむことができるスポットの抽出や、地域別マップの作成、季節別のおすすめコースなどを設定して、ガイドブックやインターネットなどを通じて PR を行っている。



瀬戸百景
 わがまち、再発見。
 気づかなかった、もうひとつの魅力が見えてくる。

- 1 中央の自然公園
Chūō no Shizen Kōen
- 2 瀬戸橋
Seto Bridge
- 3 瀬戸の灯籠
Seto no Tōrō
- 4 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 5 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 6 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 7 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 8 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 9 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 10 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 11 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 12 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 13 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 14 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 15 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 16 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 17 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen
- 18 瀬戸の歴史公園
Seto no Rekishi Kōen



街角ギャラリー
 見せる、魅せられるまち。
 モノづくりを楽しむ、私たちの暮らし、見せます。

「瀬戸百景」と「街角ギャラリー」（資料：瀬戸市）



「パーティセと」（資料：瀬戸まちづくり株式会社）

2005年「愛・地球博」開催を契機に“まちの魅力アップ作戦”

せと・まるっとミュージアム

瀬戸市では、2005年開催の「愛・地球博」の開催意義を会場だけの区域に閉じ込めるのではなく、博覧会の開催を契機に、その成果をまちづくりに活かす取り組みをしています。市民参加を切り口に、市内に点在する有形無形の資源を活用して、市域全体の魅力を向上させるこの取り組みを「せと・まるっとミュージアム」として展開しています。



The Seto Marutto Museum, adding to the charms of Seto City
The Seto Marutto Museum

With the occasion of EXPO 2005 AICHI, JAPAN, Seto City, along with its citizens, is developing the Seto Marutto Museum as a way to further enhance the charms of Seto City by utilizing our numerous tangible and intangible assets.

「せと・まるっとミュージアム」(資料:瀬戸市)

瀬戸
川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

リバーサイドギャラリー
瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

瀬戸川
瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

瀬戸川
瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

瀬戸川
瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

瀬戸川
瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

瀬戸
瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

せと・まるっと回遊
瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

瀬戸川
瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

瀬戸川
瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

瀬戸川
瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

瀬戸川
瀬戸川は瀬戸のシンボル。瀬戸の歴史を歩むとき、瀬戸川を流れる瀬戸川は瀬戸のシンボル。

「せと・まるっとミュージアム」の例 (資料:瀬戸市)

また、毎年 11 月に開催される「せと・まるっとミュージアム大回遊」では、赤津・水野・品野の各エリアの窯元の陶房を開放する「窯元めぐり」や窯元の小径まつりを中心に、商店街イベントや展覧会、市民コンサート、陶芸体験など市内各地で行われる様々なイベントを繋ぎ合わせ、まち全体に人の流れを生み出してきた。

こうしたまるっとミュージアム事業の集大成として、愛知万博が開催された 2005 年には「せと・やきもの世界大交流イベント」を市内各地で展開し、3 月のオープニング月間から 9 月の日本のやきもの月間まで毎月テーマを決めて 200 を超える多彩な事業を実施した。この間、観光客に対するおもてなしボランティアが組織され、半年間で約 8,000 人のボランティアが活動に参加し、やきものまち瀬戸の魅力を大いにアピールすることとなった。この活動は博覧会が終了した現在も継続して行われている。

こうした成果を生かし、博覧会以降も積極的にまるっとミュージアム構想を推進していくため、2006 年 2 月には 100 を超える市民団体、各種組合、企業、大学等の参加による「せと・まるっとミュージアム推進会議」が設立され、さらなる活性化を目指して市をあげた取り組みが再スタートを切った。

5. 特徴的手法

商店街と学生とが連携してまちづくりを推進する場や、若手作家が作品を展示・販売する場を瀬戸まちづくり株式会社が効果的に設けることにより、地域資源が有効に活用されている点が優れている。また、「せともの」という瀬戸ならではの地域資源をまちおこしに効果的に活用していることも大きな特徴である。

6. 課題

商店街の活性化とまち全体の魅力づくりとを引き続き効果的に連携させていくことが課題である。

(参考・引用文献)

瀬戸市ホームページ

瀬戸まちづくり株式会社ホームページ

せと・まるっとミュージアムホームページ

日本政策投資銀行地域企画チーム『中心市街地活性化のポイント』ぎょうせい、2001 年

伊藤滋編著『都市再生最前線』ぎょうせい、2005 年